



■ 奈良県保健環境研究センター3月日より

～ノロウイルス感染症に気をつけて！！～

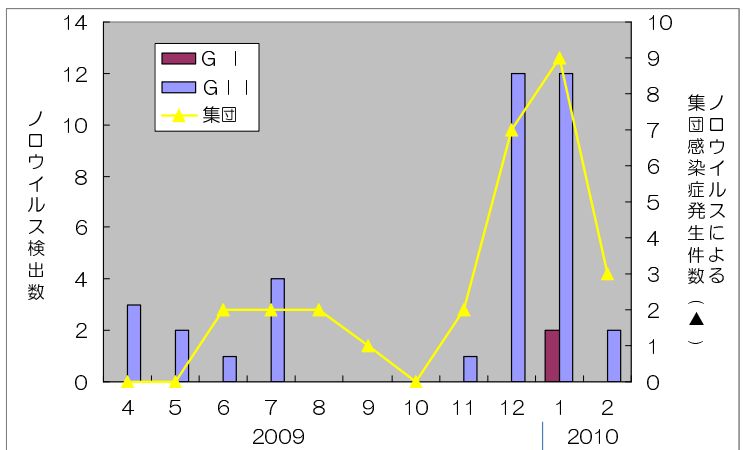
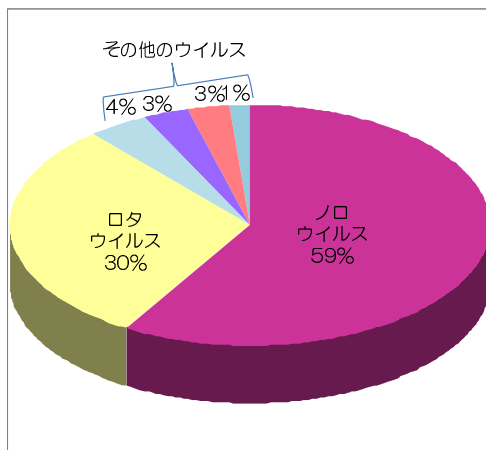


ノロウイルスは感染性胃腸炎の原因となる病原体の約60%を占めています。奈良県感染症発生動向調査事業においても、夏場を除いて通年発症があります。今年度の集団発生事例の特徴は、下痢よりも嘔吐が主症状でありました。食品を介さない集団感染も多く、その原因はよくわかりません。ヒトに胃腸炎をおこすノロウイルスの遺伝子型は、GI型およびGII型で、それぞれに14～17のgenotypeが存在します。GII4型が流行を繰り返していますが、時にはGI型の散発事例がみられます。



ノロウイルスは冬期に多い食中毒の起因ウイルスでもあります。その感染源は主に加熱不十分な二枚貝で、感染した人の吐物や便を介してもうつります。貝類を原因とする食中毒に特徴的なこととして、貝類がGI型とGII型の両方に汚染していることが多いために、同一の患者便から両方の遺伝子型が検出されたり、同じ会食グループの中でもGI型とGII型が混在したりすることがあります。10～100個ほどのウイルスでも発症し下痢や嘔吐、頭痛、発熱などの症状が出ます。治療は対症療法しかありませんが、おおよそ数日で治ります。しかし、乳幼児や高齢者は脱水症状などを起こして重症化、死亡する例もあり、水分を十分に補給することが大切です。

患者の吐物等の処理にはゴム手袋等を使用し、素手で触らないようにしてください。また、症状が治まってからもウイルスの便への排出は、一般的に一週間程度続くとされています。手洗いを励行し、トイレのドアノブを介した二次感染に注意しましょう。



平成21年度奈良県における感染性胃腸炎の原因ウイルスと月別発生状況

(ウイルスチーム 岡山 記)